

第15回横浜市地域まちづくり推進委員会表彰部会会議録

議題	1 部会長等の選出について 2 横浜・人・まち・デザイン賞の概要について 3 第10回横浜・人・まち・デザイン賞の進め方について 4 その他
日時	令和元年10月25日（金）午前10時から12時
開催場所	市庁舎3階共用会議室
出席者	委員：五十嵐委員、奥村委員、齋藤委員、田邊委員、室田委員 事務局：嶋田部長、甲斐担当課長、武智担当係長
欠席者	なし
開催形態	公開
決定事項	1 部会長は室田委員とする。 2 職務代行者は奥村委員とする。 3 本賞、支援賞の選考方法は事務局案のとおりとする。 4 調査票A、連絡票、調査票Bは修正後、委員に提示する。

議 事

（1）部会長等の選出について

（事務局）部会長については横浜市地域まちづくり推進条例施行規則第23条に基づき、委員の互選によって定める、また、職務代行者については表彰部会要綱第4条第1項により、表彰部会に部会長及び職務代行者を置く。第3項により、部会長の指名により職務代行者を定める。はじめに、互選で部会長を選んでいただきたい。

（奥村委員）経験が非常に豊かで知見が広い室田委員を推薦する。

（全委員）異議なし

（事務局）室田委員に横浜市地域まちづくり推進委員会表彰部会の部会長をお願いする。職務代行者の指名をお願いします。

（室田委員）前年度まで部会長の奥村委員にお願いしたい。

（奥村委員）了承。

（2）横浜・人・まち・デザイン賞の概要について

（事務局）議事（2）横浜・人・まち・デザイン賞の概要について説明

（3）第10回横浜・人・まち・デザイン賞の進め方について

（事務局）＜資料説明＞

（室田部会長）（資料3-2） 2段階審査となり、審査期間が短くなった。

（五十嵐委員）対象団体へのヒアリングが新たに加えられているが、ヒアリングは委員の参加も想定しているか。

（事務局）事務局のみで対応したい。

（齋藤委員）委員の参加の有無で選考に不公平感が出るので、事務局のみで良いと考える。

（奥村委員）情報は委員全員が共有しながら進めていきたい。可能であれば、ヒアリングの際に活動の動画や写真を提供してほしい。

（田邊委員）動画や写真が苦手な団体のフォローもあるとよい。

（室田部会長）公平性も考えて、ヒアリングは職員のみでやることにする。

（事務局）団体から写真や動画を提供してもらうなど、できるだけ情報を補うようにしたい。提供が難しい場合は、職員がヒアリングで得た情報で補足をする。

（室田部会長）（資料3-3） 支援賞の趣旨については、ヒアリング時に職員が直接説明することになっている。

（田邊委員）例えば空き家活用で、大家が厚意で貸す場合は支援賞の対象となるのか。

（事務局）今まで事例はない。

（齋藤委員）本来の業務範囲を超えた支援ならば対象とするなど、基準を明文化してほしい。

（事務局）今回ヒアリングを行い、様々な支援の仕方を把握・整理し、今後に向けて支援賞の基準を議論していただきたい。

(室田部会長) (資料3-4) 事務局案では提出資料が簡素化されているが、いかがか。
(五十嵐委員) 動画や写真を掲載したウェブサイトに記載できるようにしてはどうか。
(事務局) 調査票にウェブサイトに関する項目があり、記載できるようにしている。ウェブサイトが無い団体についてはヒアリングで得た情報等でフォローしたい。
(齋藤委員) 任意資料が減ることになっており、団体の負担軽減にもつながるのでよい。
(奥村委員) 調査票Aに活動の理念や目標を記載できるとよい。
(五十嵐委員) 過去に受賞された団体との交流の場や、過去に受賞された団体の今の活動を知る手段があるとよい。
(事務局) 受賞団体を紹介する冊子は作成している。改めてイベントを行うのは、現段階では厳しいが今後に向けて検討したい。
(室田部会長) 報告会を行うのはおもしろいアイデアなので検討してほしい。
(資料5) 様式について 活動目的については非常に重要項目なので、調査票Bだけではなく調査票Aにも入れていただきたい。
(事務局) 調査票Bでは3つのポイントを示しているが、いかがか。
(五十嵐委員) 起承転結の流れでヒアリングするといい。
(奥村委員) 調査票Aについて、質問があれば話を聞くことができるのか。
(事務局) 調査票Bに加えて委員から個別に質問票をいただくことになっている。
(田邊委員) 調査票Aの項目が、「活動の公共性」、「活動の積極性」とあり、市民にとっては書きにくいと考える。
(事務局) 市民にわかりやすい言葉にしたほうが書きやすいということか。
(室田部会長) 活動の発展・経緯の順でプロセスを追って記入できた方がわかりやすい。
(事務局) 順序を追って、きっかけや動機があり、今までの活動経緯、現在の活動という流れとし、わかりやすい言葉に修正したい。
(齋藤委員) 工夫した点や今後の展望はあるが、活動のアウトプット、アウトカムが見えづらい。
(奥村委員) 「公共性」の項目がそれに近い内容になっている。
(事務局) 事務局から改めて、皆さまに提案させていただきたい。委員からの意見を集約し、最終的には部会長の了解を得てまとめさせていただければと思う。
(室田部会長) (資料6) 募集・広報の方法についてはいかがか。
(五十嵐委員) 過去の応募団体は、どこに配布されたリーフレットや情報をもとに、エントリーしたのか。
(事務局) 応募時のアンケートでは市役所が最も多く、約6割の団体が市役所や区役所から情報を得たことになっている。
(五十嵐委員) 商店街組織には配布しているのか。商店街の空き店舗活用を行っているので、活動団体もいるかもしれない。
(齋藤委員) 「市商連だより」の活用もあるのではないか。
(五十嵐委員) メルマガに載せてもらうのがいい。
(田邊委員) 青年会議所はどうか。支援の話が出てくるかもしれない。
(事務局) 青年会議所は配布していないが、まち普請事業のメールマガジンでは広く周知しているので、活用できるか整理したい。
(齋藤委員) 地域ケアプラザのコーディネーターへは配布しているのか。
(事務局) 地域ケアプラザに配布している。推薦依頼も含めて対応を検討したい。
(室田部会長) 福祉、緑、商業等の分野からも配布先を検討してほしい。
(事務局) 選考されなかった団体へのフォローでは、連絡票で活動を公表していいか聞いている。
(齋藤委員) 今までは公表していなかったのか。
(事務局) 公表していない。今回は、参画団体、一次選考の通過した団体、受賞団体の3カテゴリーに分かれる。事務局としては参画団体について、何らかの形で冊子やホームページに掲載できないか考えている。
(室田部会長) カテゴリーで分けると、どの段階で選定されなかったのかがわかってしまうので良くないのではないか。
(田邊委員) リーフレット名称は「受賞活動・受賞景観集」となるのか。参画団体の活動紹介する冊子をつくり、それに掲載してもいいかという質問であれば、気持ちよく回答できる。受賞に関わらず、活動について掲載することを了承するかという、問いだけでもいいのではないか。

(事務局) 受賞団体のモチベーションにもつながるので、受賞団体は今までどおり紹介したい。リーフレット裏面に参画団体一覧として載せることについても御意見をいただきたい。

(田邊委員) 自分の住んでいるまちでの活動を知り、興味を持ってもらうことも目的の一つだ。団体名だけでなく、活動内容の紹介があるといい。

(室田部会長) 別冊子として、参画団体が載るのがいいが、ウェブに載せるというのものもある。

(齋藤委員) まちづくり事例集として掲載する方がいい。今回は試行的にウェブサイトで参画団体の活動を紹介する方法もある。

(室田部会長) 連絡票では、受賞に関わらず、ウェブサイトで活動を紹介していいかとなる。

(事務局) 冊子では差異が出てしまうので、今年度はホームページで紹介することを提案したい。また、団体の意向を確認するのか議論いただきたい。

(室田部会長) デザイン賞を受賞しなかった場合、活動の掲載をしない選択ができるようにした方がいい。

(齋藤委員) 横浜のまちづくりの取組のポータルサイトをつくり、まち普請やデザイン賞等をデータベース化して紹介することを今後検討してほしい。

(室田部会長) データベース化して見やすくなるように検討していただきたい。

(事務局) 御意見は今後の参考としたい。

資料	資料1	地域まちづくり推進条例等 (抜粋)
	資料2	横浜・人・まち・デザイン賞の概要について
	資料3-1	前回の課題に対する取組及び改正点について (案)
	資料3-2	選考方法について (案)
	資料3-3	支援賞について (案)
	資料3-4	審査書類について (案)
	資料4-1	第10回横浜・人・まち・デザイン賞のスケジュール (案)
	資料4-2	第10回横浜・人・まち・デザイン賞のスケジュール詳細 (案)
	資料5	様式【調査票A、連絡票、支援賞推薦票、調査票B、照会票】 (案)
	資料6	募集・広報の方法について (案)
	参考資料1	横浜市地域まちづくり推進委員会表彰部会要綱
	参考資料2	横浜市まちづくり顕彰事業実施要綱
	参考資料3	横浜市まちづくり顕彰事業実施細目
特記事項	令和2年1月に都市美対策審議会表彰広報部会との合同部会を開催予定。	